

★福島県感染症発生動向調査週報 県北地域情報 !★<7月19日発表>

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱は小流行が続いています。
- ・RSウイルス感染症(乳幼児がかかりやすい呼吸器感染症)の流行の兆しが見られます。
- ・アメーバ赤痢の発症の報告もあります。

・今月も油断せずに、咳が出るときは咳エチケット(マスク)を、外から帰ったら、手洗い、うがいなどの感染予防対策を続けましょう。

咽頭結膜熱(プール熱)について!

咽頭結膜熱は「アデノウイルス」によって引き起こされる感染症で、プールの水を介して感染することもあるので、「プール熱」とも呼ばれています。6月頃から徐々に増加し、7月から8月はピークを形成します。

症状

発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠感、咽頭痛とともに、結膜充血、眼痛などの結膜炎に伴う症状が出現し、3日から5日持続します。

また、頸部、特に後頸部のリンパ節の腫脹と圧痛を認めることがあります。潜伏期は5日から7日とされています。

感染経路

主な感染経路は、唾液などの飛沫感染や涙、鼻水、糞便などによる接触感染です。

治療方法

症状がでたら、速やかに医療機関(通常は内科や小児科ですが、目の症状が強いときには眼科)を受診しましょう。特異的治療方法はなく、対症療法が中心になります。感染力がとて強いウイルスのため、看病している大人にもうつることがあります。新生児・高齢者などは重篤になりやすいので注意しましょう。

予防方法

- (1)感染者との密接な接触は避けましょう。
- (2)流行時にうがいや手指の消毒を励行しましょう。
- (3)プールから上がった際は、必ずシャワーを浴び、タオルは個々に使用し、共有するのは避けましょう。
- (4)手や指にウイルスが付着していることもあるので、汚れた手で目を触ったり、こすったりしないようにしましょう。

蚊媒介感染症について!

蚊を介して感染する感染症にはいくつか種類があり、日本脳炎、デング熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱などがあります。今回はデング熱、ジカウイルス感染症について説明します。

症状

両方の主な共通症状として、発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛や皮膚の発疹等があります。

感染経路

デング熱の原因ウイルスはデングウイルスで、ジカウイルス感染症の原因ウイルスは、ジカウイルスです。ヒトスジシマカやネッタイシマカの一部が媒介蚊となって、ウイルスに感染した患者を吸血し、その蚊が他者を吸血することで感染します。(蚊媒介性)

すべての蚊がデングウイルスやジカウイルスを保有しているわけではありません。

予防方法

- (1)やぶなどの蚊のいそうな場所に行く時、流行地域へ渡航する際には、長袖・長ズボンの着用等で肌を露出せず、虫除けスプレーをこまめに使用し、蚊に刺されないようにしましょう。
- (2)植木鉢の皿、空き缶、雨水ます、古タイヤなど、住まいの周囲の水たまりを無くし、蚊の発生を減らしましょう。

\* 感染のリレーを防ぐために

性行為について、流行地域滞在中及び帰国後最低8週間は性行為を控えるか、コンドームを正しく利用しましょう。妊婦及び妊娠の可能性のある女性は流行地への渡航を控えた方がよいでしょう。

\* 流行地

- デング熱: 東南アジア、中南米ほか
- ジカウイルス感染症: アフリカ、東南アジアほか



(参考)厚生労働省ホームページ※夏休みにおける海外での感染症予防についても参考にいただければ幸いです。

→ [http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/travel-kansenshou.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel-kansenshou.html)

「県北地域感染症情報レター」に関する御意見、御質問等につきましてメールにて返信くださるようお願いいたします。

県北保健福祉事務所生活衛生部医療薬事課 メールアドレス hofukunet\_kenpoku@pref.fukushima.lg.jp

(県の情報及び週報は、「福島県感染症情報」を検索してください。)